

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「みこころが天に行われるとおりに、地にも」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

主のご降誕をおよこび申し上げます。

12月初めに今年の流行語が発表されました。「集団的自衛権、ダメよ～ダメダメ」。数日後、「第4回九条世界宗教者会議」が東京で開催され、初来日となるWCC（世界教会協議会）総幹事のオラフ・トヴェイト師による発題があり、憲法9条は東アジア、ひいては世界における平和の柱であり、再解釈ではなく「再確認」すべきもの、すべての「いのちを守る」ために祈り、協働していきましょうと語られました。また、今年7月にはWCC中央委員会で「核から解放された世界に向けて」と「日本国憲法第9条の再解釈について」という2つの声明が採択され、8月にはチャン・サン WCC 議長がこの2つの声明を携えて来日され、菅官房長官と面談の上で手渡し、世界約5億6千万人のキリスト者の目が日本政府の動きに向けられ、祈られていることを伝えていただきました。

トヴェイト総幹事は、「信仰的な深まりや魂の救いを求めて教会に来ているのだから、政治的な発言や行動は相応しくないという主張をどう考えるか」という旨のフロアからの質問に対し、私たちキリスト者は「みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように」と主の祈りで唱えている、神さまのみ心、イエスさまの宣教の業を思い起こすことが大切だという旨の応答をされました。とても明快なイエスさまの宣教方針を教えられ、そこに裏付けされた様々な活動や、2012年総会で決議した「原発のない世界を求めて」や2014年総会の「ヘイトスピーチ」への抗議声明決議、憲法9条改悪に対する声明など、管区が様々な課題に対して発信し続けていることへの励まされたと私は受け取りました。

私たち一人ひとり、あらゆる被造物の「いのち尊厳」を守ること、それが最も大切な信仰的な課題であること、イエスさま

□会議・プログラム等予定

(2014年12月20日以降および
前回報告以降追加分)

2015年1月

- 11日(日)～12日(月) 正義と平和・担当者の集い〔京都教区センター〕
- 12日(月) 正義と平和・委員会〔京都教区センター〕
- 13日(火) 人権担当者会〔京都教区センター〕
- 14日(水) 礼拝委員会〔管区事務所〕
- 15日(木) 主事会議〔管区事務所〕
- 20日(火)～22日(木) 主教会〔大阪〕
- 26日(月) 原発問題プロジェクト運営委員会〔管区事務所〕
- 27日(火) 日韓協働合同委員会〔管区事務所〕

2月

- 4日(水) 常議員会〔管区事務所〕
- 19日(木) 礼拝委員会〔管区事務所〕
- 19日(木) 祈祷書改訂準備委員会〔管区事務所〕
- 24日(火)～26日(木) 管区共通聖職試験
- 25日(水) 日韓協働プロジェクト会議〔管区事務所〕

<関係諸団体等会議・他>

- 12月6日(土) 大韓聖公会大田教区主教按手式-首座主教出席

2015年

- 1月19日(月) ウィリアムズ主教記念基金委員会〔立教大学・太刀川記念館〕
- 23日(金) NCC 常議員会〔東京YMCA 東陽町センタービル〕
- 2月20日(金)～22日(日) 第4回U26集会〔市川市少年自然の家、千葉県〕



- ☆12月25日(木)は降誕日礼拝のため、管区事務所業務をお休みいたします。

- ☞管区事務所の冬休み 12月29日(月)～1月2日(金)管区事務所業務をお休みいたします。よろしくお願いいたします。

がこの世にお生まれになったことの意義であることを再確認したいと思います。「み言葉は人となり、私たちの間に住まわれた(日本聖公会聖歌集441番)」。うれしい楽しいクリスマスの雰囲気、心に躍らせながらも、イエスさまは私たちの近く、私たちの心の中にお生まれになったと静かな祈り中で感じられるとき、同じ幸せを隣人と共に分かち合う使命が与えられていることを忘れずにいたいと思います。

11月末にエキュメニズム教令50周年を記念して行なわれた日本初の歴史的な礼拝、カトリック・聖公会・ルーテルの3教会合同礼拝のテーマ

は「いつくしみと愛のあるところ神ともに(テゼ共同体)」でした。永年の対話によって、教派の壁を乗り越え、分裂から一致と協働へと向かう記念すべき恵みの時、新たな始まりを感じる時でした。日本の中でキリスト者は圧倒的に少数派ですが、日本中・世界中で祝われるクリスマスの時こそ、いつくしみと愛をもって、イエスさまのご降誕の意味を体現していくものでありたいと願います。

クリスマスおめでとうございます。2015年もみなさまにとって恵みのあふれるよい1年となりますようにお祈り申し上げます。

□主事会議

第61(定期)総会期第2回11月20日(木)

<主な決議事項>

1. 2015年度大斎克己献金国内伝道強化プロジェクトに九州教区より「佐賀聖ルカ伝道所境内地拡張および施設整備」計画の申請があった。2012年に現在地を購入後、隣接地を購入し、一般住宅である現在の建物に十字架を設置するなどし、地域の方々にもわかりやすくして新しい宣教活動拠点としての整備を進めたい。将来的には教会への成長と礼拝堂建築を実現したい。検討・協議のうえ申請通り、全体予算970万円のうち620万円の支出が承認された。
2. 2014年10月20日より23日まで、韓国・済州島において開催された「日韓聖公会宣教協働30周年記念大会」の報告が配布され、共同声明に関する内容等の説明が行なわれた。
3. 磯宣教主事(主教被選者)の後任者について主教会で人選し、現在交渉中。
4. 財政主事により、2014年度および2015年度一般会計収支予想説明が行なわれ、補正予算を組む必要はなしと判断され、承認された。

次回以降の会議

2015年1月15日(木)・3月23日(月)

□常議員会

第61(定期)総会期第3回11月26日(木)

1. 2015年度大斎克己献金国内伝道強化プロジェクト選定に関して

11月20日開催の第2回主事会議にて検討・協議のうえ承認された「佐賀聖ルカ伝道所境内地拡張および施設整備」に関して、総主事より説明が行なわれ、承認された。

2. 松本聖十字教会礼拝堂耐震補強工事費支援のお願いに関して

東日本大震災による亀裂等の被害と、3か月後の6月30日に発生した、長野県中部地震により、今後、同規模の地震が発生した場合、倒壊の恐れがあるとの診断結果を受け、必要最小限の耐震補強工事をする事となった。総工費3,000万円のうち、中部教区からの借入金を含め自己資金は1,000万円、残り2,000万円を募金目標とする。検討協議の結果、1,500万円を篤志家からの震災建物復興寄付金より支出することが承認された。

3. 財政主事より2014年および2015年一般会計収支予想説明が行なわれ、承認された。

次回以降の常議員会

2015年2月4日(水)

□管区

大韓聖公会大田教区主教按手式

被選主教 兪 樂濬 (ユ・ナクジュン) 師
2014年12月6日(土) 10時半

WCC 総幹事 オラフ・トヴェイト師来日

2014年12月3日(水)～10日(水)

12月9日(月) 15時 WCC 総幹

事記者会見 16時 WCC 総幹
事・首座主教公式懇談会(於:
管区事務所)

Us.(前USPG) グローバルリ
レーションズ・プログラムマネージャーハビブ・ネーダー師来日

2014年12月8日(月)～16日(火)

12月15日(月) 11時 管区事務
所来訪

□各教区

東京

・聖職按手式 2015年1月31日
(土) 1時半 日本聖公会東
京教区 聖アンデレ主教座聖
堂) 説教:司祭 高橋 顕
司祭按手:志願者 執事 ダ
ビデ倉澤一太郎

神戸

・阪神・淡路大震災 20周年記念礼拝

①兵庫県基督教連合会 1月11日(日) 15時
神戸聖ミカエル教会

②神戸教区礼拝 1月17日(土) 10時半 神
戸聖ヨハネ教会

2014年教区会選出常置委員

北海道	聖職 信徒	広谷和文(長) 遠藤淳治	大町信也 沖田京子	下澤 昌 久末隼一
東北	聖職 信徒	越山健蔵(長) 長井 淳	中山 茂 竹石和己	長谷川清純 坂水かよ
北関東	聖職 信徒	小野寺達(長) 横川 浩	矢萩栄司 菊池邦香	木村直樹 谷川 誠
東京	聖職 信徒	高橋宏幸(長) 黒澤圭子	笹森田鶴 後藤 務	高橋 顕 松田正人
横浜	聖職 信徒	長野 睦(長) 中林三平	入江 修 村井恵子	田澤利之 佐藤尚敏
中部	聖職 信徒	野村 潔(長) 池住 圭	中尾志朗 岩田牧夫	田中 誠 牛島達夫
京都	聖職 信徒	藤原健久(長) 安藤邦子	井田 泉 木川田道子	石塚秀司 小野周一
大阪	聖職 信徒	山本 眞(長) 鈴木光子	岩城 聰 長野泰信	齊藤 壹 畑野めぐみ
神戸	聖職 信徒	上原信幸(長) 松田嘉彦	八代 智 橋口 満	小林尚明 大東正人
九州	聖職 信徒	山崎貞司(長) 秋山献之	牛島幹夫 安村 妙	吉岡容子 丸田耕造
沖縄	聖職 信徒	戸塚鉄也(長) 島田光司	高良孝太郎 富本盛彦	高 英敦 知花阿佐子

《人 事》

京都

<信徒奉事者認可>

(富山聖マリア教会)

2014年12月1日付

ピリポ廣瀬康夫 (任期1年)



📖 出版物案内

・『原発問題についてのQ&A』 改訂1刷
2014年11月1日付発行 価100円(税込)

カトリック教会・日本聖公会・日本福音ルーテル教会が 合同礼拝を開催

—「エキュメニズム教令」発布50周年を記念して—

司祭 アシジのフランシス 西原廉太

(日本聖公会エキュメニズム委員長)

ローマ・カトリック教会、第2ヴァチカン公会議「エキュメニズム教令」の発布50周年を記念し、日本カトリック教会、日本聖公会および日本福音ルーテル教会の3教会による合同礼拝が11月30日、東京カテドラル関口教会聖マリア大聖堂で行なわれた。約600人を超える参加者が「いつくしみと愛のあるところ- ubi caritas et amor」をテーマに、共に心を合わせ、主を賛美した。2教会間対話に基づく合同礼拝の経験は数多いが、このような3教会合同の礼拝は世界でも例を見ず、歴史的出来事となった。



「エキュメニズムに関する教令」は、第2ヴァチカン公会議(1962～65)の主題の一つでもあった「キリスト者の一致」について、カトリック教会の新たな方向性を示し、教会の刷新とエキュメニズムとの密接な関係を説き、実践を具体的に提示したものである。今日に至るまで、世界のエキュメニカル運動、国際的教会間対話にも多大な影響を与えてきた。

礼拝に先立って行われたシンポジウムでは、日本ルーテル学院大学学長の江藤直純牧師が司会を務め、カトリックからは上智大学神学部長でイエズス会の光延一郎司祭、日本福音ルーテル教会からは日本ルーテル神学校校長の石居基夫牧師、そして日本聖公会からは西原廉太(立教大学)がパネラーとして参加した。各教派

の立場からエキュメニズムに対する視座や現時点での合意事項、今後の課題などが語られた。

カトリックの光延司祭は、「今日このとき、教皇フランシスコはトルコのイスタンブールを訪問している。イスタンブールは昔、コンスタンティノープルと呼ばれた東方正教会の総本山。その地で、今教皇はエキュメニカル総主教と会談している。東方でそのような大きな出来事が起きて

いる今、さらに東の果ての日本で諸教派が一致して、このような合同大礼拝を持つこと自体が素晴らしい」と指摘。先々代の教皇ヨハネ・パウロ2世が1995年に発布した回勅「キリスト者の一致」の中に、「キリストを信じる人々は共

に結ばれ、十字架についての同一の真理を手を取り合って告白しなければならない」とあることなどを例に、「ローマ教皇はエキュメニズムに対して強い使命感と責任感を持っている」と強調した。その上で、「全ての教派が自分たちこそ真理の継承者である、主の弟子であると公言しつつ異なる道を歩んでいることはキリスト自身が分裂しているかのようであり、明らかに福音に反し、宣教の妨げになっている」とし、「キリスト教とは国家、民族、人種を超えた価値観である」とエキュメニズムの重要性を訴えた。

日本福音ルーテル教会の石居牧師は、「西方教会の分裂は16世紀にルターの宗教改革から始まった」とした上で、「キリストの証人としてのルターを共同して確認し、信仰の学びを深め、

歩みを一つにしていくことが重要」と強調。エキュメニズムについて、「単に異なる教派が仲良くするというのではなく、一つのキリストを証し、一人ひとりがキリストの体として働いていることをおろそかにしない。宗教改革以降、500年もの間、断罪し合ってきた教会の歴史を改め、互いに断罪し合うのではなく、教派を超えて一つのキリストに結び付けられた者としてお互いが承認し合うことが大切だ」と語った。

日本聖公会の私からは、「エキュメニズム教令」第4項の忠実な一実践として、1996年に、「聖公会—ローマ・カトリック教会国際委員会」(ARCIC)が、当時の教皇パウロ6世とマイケル・ラムゼー、カンタベリー大主教の合意に基づいて立ち上げられ、以来、実に半世紀近くに及ぶローマ・カトリック教会と聖公会の間での国際対話が地道に誠実に継続されてきたことを紹介。この国際対話ARCICにおいては、聖餐、職制、権威、救済論、義認論、教会論、さらには、マリア論に至るまで、ほぼすべての教理をめぐって原則的に合意が為されていること等を紹介した。

最後に、司会の江藤牧師(日本福音ルーテル教会)が「日本の各地でそれぞれにエキュメニズムを進むことができますように」と総括。「世界で最初の3つの教会による礼拝に心を新たにしてお臨みしましょう」と呼び掛け、合同礼拝に移った。

合同礼拝は岡田武夫・カトリック東京大司教と大畑喜道・日本聖公会東京教区主教、大柴譲治・日本福音ルーテル教会総会副議長の共同司

式で執り行われ、3教派が一つのキリストに結び合わされることを示すため、最初にそれぞれの司祭・牧師が一つの洗礼盤に水を注いだ。説教を担った徳善義和・日本福音ルーテル教会牧師は、「キリスト者が一つの群れになることこそがイエスの最期の願い。この祈りの中には主の痛みが、受難が含まれていることを思いながら、このエキュメニズムの歩みに対し、神に感謝する時が来ている。私たちは一つになるためのこの歩みが続けていかねばならない」と語りかけた。

「一致の典礼」では、カトリックの岡田大司教が「エキュメニズム教令」の一部を朗読。共同祈願の後には、3教派の補式者が手にした復活のろうそくから手元のろうそくに火を移し、「キリストの光を世界に輝かせ、世界がキリストの光に照らされ、その隅々にまでキリストの平和が広がる」ことを共に祈った。信仰宣言は会衆全員で「ニケア・コンスタンティノープル信条」を朗読。カトリック・聖公会の共通訳による主の祈りを唱えた。

今回は、共同のユーカリスト、聖餐は分かち合えなかったが、いつの日か、「共同聖餐」を共に祝える日が来ることを心から願う。

合同礼拝には駐日ローマ教皇大使であるジョセフ・チェノットウ大司教、小橋孝一・日本キリスト教協議会(NCC)議長、石橋秀雄・日本基督教団議長をはじめ、数多くの来賓が参列されたことも感謝であった。



オラフ・トヴェイト WCC 総幹事が初来日

今年8月に予定され、延期されていたオラフ・トヴェイト(Olav Tveit)世界教会協議会(WCC)総幹事が初めて日本を訪問してくださいました。WCCの正式加盟教会の日本基督教団・在日大韓基督教会・日本聖公会が中心になって準備をし、15年ぶりとなるWCC総幹事の来日が

実現しました。12月3日にお連れ合いのアンナさんとキム・ドンソンWCC幹事と共に到着し、5日まで東京で開催された「第4回9条世界宗教者会議」で講演してくださいました。

7月のジュネーブでのWCC中央委員会で決議された「核のない世界の実現を求めて」と共に、8月にチャン・サンWCCアジア地域議長によって菅官房長官に直接手渡された「日本国憲法第9条再解釈について」をもとにWCCの考え

を丁寧に説明しながら、東アジア、世界にとって憲法9条が平和を構築する柱となるとメッセージされました。最終日の平和行進では多くの宗教者と歩みを共にし、6日からは京都入りし、7日は京都教区の奈良基督教会の主日礼拝での説教をしてくださり、京都のカトリック教会でのエキシメニカルな平和の祈りの集いでお話しをされました。



8日は大阪から仙台へ飛んで東日本大震災の被災地を巡礼して原発事故被害者の声に耳を



傾けられました。9日は東京四谷のニコライ堂で大主教との面談、管区事務所での記者会見と植松首座主教との懇談をして、各教派の代表によるレセプションに参加し、10日の朝、成田から故郷のノルウェーへ向けて帰国されました。トヴェイト総幹事はとても背の高い方で、どこへ行ってもその存在感を示し、柔らかな物腰で配慮に満ちた言葉遣いで、WCCと協働して行きましょと、様々な示唆を日本の教会へ発信してくださりました。(管区事務所総主事 司祭 矢萩新一)

再録

東京教区時報「コミュニオン」
(秋号・第19号)から

パレスチナ問題と クリスチアンの課題

クリスチアンの課題を考える

サラーム・パレスチナでは昨年より月一回読書会を開き、村山盛忠著の「パレスチナ問題とキリスト教」を読んできました。6月7日、一粒の麦の会、正義と平和協議会、信仰と生活委員会の協力の下、同氏を迎えて講演会を催しました。又、ラブキン教授(カナダ・モントリオール大学、歴史学者 ユダヤ教徒)と、著作「イスラエルとは何か」について7月7日、懇談の時を持つことができました。

イエス・キリストのゆかりの地で起こっている問題は、私たちキリスト教徒に大きな責任があるのだとは知らなかった、ということ、二つの講演会・懇談会を通して気付かされました。

7月、イスラエル軍のガザ地区攻撃により、二千百人以上が殺され、十万人以上が住居を失いました。停戦しても封鎖解除交渉は進まず、上下水道、食糧、医薬品全てが不足する中、来月には雨期の寒さが襲うでしょう。ガザの人々が普通の生活を取り戻す日まで、私たちは見守らずにはいられない。

〔村山盛忠牧師の講演会〕

村山牧師はご家族と共に1967年の第3次中東戦争をエジプトで経験されました。コプト福音教会の協力牧師として派遣されていた時のことです。そしてWCCのパレスチナ問題協議会(1975年、1983年)に参加された時、当時のエルサレム教区リア司祭の発言が心に響いたと話されました。「わたしはアラブのパレスチナ人で昔からパレスチナに住んでいる。パレスチナの地では、ユダヤ人迫害は一度もおきていない。ユダヤ人問題を起こしたのはヨーロッパ社会である。ユダヤ人を迫害したヨーロッパ人が、ユダヤ人に償いをすべきだ。しかし償いをしているのは、パレスチナ人なのだ。あなたがたは聖地旅行をする

が、パレスチナのキリスト者となぜ対話をしないのか」というものでした。

私たちの知っているキリスト教は、西洋キリスト教を通してであり、その西洋キリスト教会が異端としてきた「中東キリスト教会」の歴史と、旧約聖書の読み方を学びなおす必要を説かれました。

イスラエル国家が土地所有の根拠としているヘブライ語の「エレッツ・イスラエル」（イスラエルの地の意）は、ユダヤ教が重視しているモーセ五書には出てこない。旧約聖書（民数記、申命記）における土地所有に関する解釈では、世界のすべての土地は本来神のものである。また聖なる地はパレスチナだけではない、どの地も聖なる土地であると話されました。

聖書にでてくるイスラエルと現在のイスラエル国家とは全く連続性はないと、ユダヤ教徒自ら世界に発信しておられるヤコブ・ラブキン著「トラーの名において」が紹介されているところへ、たまたまこの時期に来日されたラブキン氏ご本人が会場に入ってこられて拍手喝采。あまりにもタイムイングの良い不思議な一日となりました。

【ラブキン教授を囲んだ懇談会】

質問：イスラエル政府は「いわゆる入植地の拡大政策」をどのようなプロセスの下に実行してきたのか、「誰を、いつ、どこに」といったシンプルな政策実行には、なにか一定のルールがあったのですか？

回答：最初の段階では、政府の計画的なコントロールのもとに実行されたのではなく、短期滞在の許可をとって入り込み、そのまま居座ってしまう。あるいは国の許可なく占拠し、入植地を増やしていった。軍としては散在する入植者を守りにくいので、反対だったが、国は立ち入りを禁止することができなかった。入植者は事実を積み重ねて、水道などを引き、町を造っていった。こうした人々は全体の15%位でイデオロギー的理由から入植した人々です。後の85%は土地代も安く、税金など経済的負担の軽い入植地を選択した人々で、純粹に経済的理由からです。当時住宅関連の大臣であったシャロン氏が入植地に人を増やす政策をとり、旧ソ連など様々な国から

やってきた人々もイスラエル国内よりも土地代の安い入植地を選んだわけです。（略）

質問：私は今までイスラエル国内に住むユダヤ人は、すべてシオニストだと漠然と思っていました。しかしお話をうかがっていると、問題はイスラエル国外のユダヤ人やその支持者、そしてとりわけシオニストクリスチャンと呼ばれる人たちの影響力が大きいということが見えてくるようですが、如何でしょうか？

回答：イスラエルに住む非アラブ系イスラエル人は大体シオニストです。ここでユダヤといわずに非アラブといったのは、ロシア人など色々な帰還者が多数派に属して、国家を形成しているからです。

シオニズムの問題はイスラエル国内では重要な現実の課題として議論することができるが、国外ではバーチャルで現実ではないため、極端な立場をとることができる。自分の子供が戦争にいくわけではないので、無責任な立場で発言する。（アメリカの）クリスチャンシオニストは非常に裕福で、イスラエルの最も過激なシオニストに資金援助をしているので、その意味では影響が大きいと言える。ユダヤ人のシオニストは様々な政治的な立場の人々に援助している。

質問：パレスチナ問題は、私には遠い問題でしたが、今は違います。（略）この問題解決のために、日本の一般人にもできることがあれば教えてください。

回答：まず日本のメディアがパレスチナ・イスラエル問題をどのように報道しているか注意を払ってください。例えば、ユダヤ教徒とシオニストを混同してないかなど注意深く読み、事実と異なる場合は、その誤りを報道機関に抗議しましょう。また活動の戦略として、「民族」「宗教」「国家」など抽象的問題を語るのを止め、具体的な「家族」レベルの問題に焦点をあてて語りはじめましょう。例えば、難民キャンプのごく普通の家族がなぜ苦難を強いられるのかなど、現実の家族の問題に注目していくと、人としての共感が生まれるからです。

Merry Christmas and a Happy New Year



■ 日本聖公会第61（定期）総会決議録 正誤表

- 197頁 下から2行目 [誤] わたしち →[正] わたしたち
- 209頁 「決議第21号（第20号議案修正議案可決）日本聖公会祈祷書一部改正の件」
3-4行目
[誤] 提出者 主教会 礼拝委員会
→[正] 提出者 主教議員 主教 加藤博道
中部教区聖職代議員 司祭 西原廉太
東京教区聖職代議員 司祭 笹森田鶴
- 327頁 財産目録（2013年12月31日現在）（収益事業部門）
- | | | | | | |
|----------|--------|-----|-------------|------|-------------|
| 科目【資産の部】 | 建物附属設備 | [誤] | 97,830,675 | →[正] | 103,883,186 |
| 摘要（相手先） | 資産合計 | [誤] | 587,107,593 | →[正] | 593,160,104 |
| 摘要（相手先） | 正味財産合計 | [誤] | 195,239,649 | →[正] | 201,292,160 |
- 334頁 5行目[誤] 司祭パウロ横川浩 →[正] パウロ横川浩
- 340頁 「諸委員」名簿15行目
[誤] 原発と放射能に関する問題特別プロジェクト
→[正] 原発と放射能に関する特別問題プロジェクト

※ 正誤表は、決議録に挟み込めるよう別紙印刷物もご用意いたしました。
よろしく願いいたします。